

鉄道高架と津波防災について、新市長に問う

12月5日から12月議会が開かれ、一般質問が行われました。村上かずしげ議員の一般質問は9日でした。新市長になって初めての議会です。とくに新市長の公約を問う質問がカナメになっています。村上議員は、

1、鉄道高架

問 4年前の市長選挙で、新市長は駅舎の改築には賛成だが、鉄道高架には反対と公約した。財政負担の大きさと今後の花咲線・釧網線の存続が確かなものとなっていないことがその理由。駅は未来志向型で平面とすべきと述べている。なぜ、4年して賛成に転じたのか。

問 花咲線、釧網線の存続が決まっていなのに鉄道高架推進に転じるのは納得できない。少なくとも花咲線、釧網線の存続が決まるまでは「凍結する」というのが当たり前ではないか。

新市長は4年前の鉄道高架反対の公約を投げ捨て、市民の反対が多い「高架下道路のL字型」を批判して当選しました。でもなぜ、賛成に転じたのかの説明はありません。



問 北大通・共栄大通を高架下でまっすぐつないで車両が避難できるようにする、通常時にも一般車両が自由に通過できるようにバス専用道路にはしない考えのようだが、これまでの計画を見直すのか。

共産党は鉄道高架に一貫して反対

新市長の公約のうち、鉄道高架と、津波防災について質問しました。今回は村上議員の質問を紹介し、次回以降で新市長の答弁を紹介します。

「高架下道路はバス専用でL字型、あるいは西側を迂回」というのは、国の認可を得るためのウオーカブル都市構想の要です。直線に道路を見直すと、これまでの計画の土台がガラリと変わります。市長は、どこまで全体像の見直しを考えて、直線化を提案したのでしょうか。



村上かずしげ通信

2、防災

問 「6、7メートルの高さの防潮堤を海岸線につくって津波に備える、市民の命を守る」ことを公約した。しかし、この高さでは最大津波は堤防を越えてしまう。防潮堤を防災のハード整備の一つとして進める考えなのか。

防潮堤も一つのアイデアだと思います。しかし、湾ではない釧路市を囲む防潮堤は可能でしょうか。釧路だけ助かればよいとはなりませんから、海岸線の他の町と一体整備になるでしょう。しかも、最大津波高はこの堤防を超える見通しです。公約の熟度を見極めたって考えています。

